

音楽の学習を進めるにあたって(2年生)

◇授業の進め方

- ① 授業の持ち物は、中学生の音楽2・3上下(音楽)の教科書、中学生の器楽の教科書、合唱曲集、ファイル、筆記用具で、来年度もすべて使用します。筆記用具は必ず持参し、それ以外は授業前日の教科連絡で指示されたものを、忘れないように用意してください。
- ② 音楽の授業では、中学を卒業してからもずっと音楽を楽しみ、歌ったり、演奏したり、聴いたりできるように、表現・鑑賞の様々な活動を通して、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、音楽文化の理解を深めていき、自分たちで作り上げる喜びとそれらすべてに感動できる心を育てることを目標にしています。
- ③ 授業の内容は、おもに表現と鑑賞の活動に分けられ、年間で両方の内容を扱います。
- ④ 表現では、歌詞の内容や曲想を味わい、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して演奏します。
- ⑤ 鑑賞では、音楽を形づくっている要素(旋律、リズム、ハーモニー、音色、強弱等)や構造と曲想のかかわりを理解して聴き、「こう感じるのはリズムが〇〇だから」というように根拠をもって、音楽のよさや美しさを味わえるようにします。
- ⑥ 授業のはじめに、その時間の目標を確認し、進めていきます。
- ⑦ 目標に向けて、音楽の表現しているものを感じ取ったり、練習して表現を工夫していきます。
- ⑧ グループやパートなどでの活動があります。ひとりひとりの意見を尊重し、わからないところは一緒に考えてお互いを高め合いましょう。
- ⑨ 実技のテスト、定期考査があります。テストの日、内容は前もって知らせます。

◇学習する上で注意してほしいこと

- ① 授業に必要なものを忘れないようにし、遅れずに余裕を持って音楽室に来てください。
- ② 宿題・提出物はしっかり取り組み、必ず期限を守りましょう。
- ③ “聴く”ことは、学習・音楽の基本です。耳と心を集中して聴きましょう。
- ④ たとえ苦手だとしても、一生懸命取り組むことが大切です。何もしなければ、何も変わりません。「やってみよう!」という気持ちをもって臨みましょう。
- ⑤ 授業中に大切だと思ったことは、楽譜やプリント等にメモするようにしましょう。

◇家庭学習の進め方

- ① みんなと合わせながら演奏するものは家庭学習が難しい場合もありますが、個人の技能を高めることはできます。楽譜に書かれていることを読み取ったり、表現を工夫して歌ってみましょう。
- ② 新しく習った音楽用語・記号等を覚えるようにしましょう。



◇テスト前の学習

- ① 教科書や合唱曲集に書き込んだこと、プリントを中心に復習しましょう。
- ② 楽譜には、演奏のために必要な情報が詰まっています。読みとるようにしましょう。
- ③ 表現のポイントや、歌詞、音楽を形づくっている要素などを再確認しましょう。
- ④ わからないことはそのままにせず、聞きにきてください。

◇1年間の学習内容

月	学習内容	月	学習内容
4	カンタータ「土の歌」を知る 舞台芸術と音楽 鑑賞「アイダ」「勸進帳」	10	箏によるアンサンブルの楽しみ 表現 器楽 箏
5	言葉を大切にした歌唱表現の工夫 歌唱 「夏の思い出」	11	創作 箏 「ちらちらちらと」
6	動機の展開を伴う形式の面白さ 鑑賞 「交響曲第五番」	12	混声合唱へのステップ ～さまざまな曲想の表現～
7		1	
8	オルガンの音色とフーガの面白さ 鑑賞 「フーガト短調」	2	式歌
9	箏を弾こう 旋律線を生かした日本の歌の表現の工夫 表現 器楽 箏「荒城の月」	3	

◇評価

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、感受したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・共同的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

*授業の取り組みや活動への積極性、プリントの提出、実技テストへの取り組み、実技テスト、プリントの内容、定期考査等で評価します。